

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2019年(令和元年) 第72号



生物資源科学部本館

《目次》

学部長挨拶、会長挨拶……………	2	あすなる会(森林資源科学科)……………	14
令和元年度総会・講演会・懇親会……………	3	桜水会(海洋生物資源科学科)……………	15
平成30年度校友会会計決算書……………	4	工学会(生物環境工学科)……………	16
令和元年度校友会会計予算書……………	5	F T会(食品生命学科)……………	17
校友会だより(F T会、拓友会)……………	6	拓友会(国際地域開発学科)……………	18
校友会だより(応用生物科学科校友会、くらしの生物科学科校友会)……………	7	応用生物科学科校友会(応用生物科学科)……………	19
令和元年度会長賞 表彰、カッター部……………	8	くらしの生物科学科校友会(くらしの生物科学科)……………	20
富嶽会(生命農学科)……………	9	支部だより(宮城県支部、山形県支部)……………	21
紫友会(生命化学科)……………	10	支部だより(神奈川県支部)、SDGs達成に向けた校友の活動……………	22
角笛会(獣医学科)……………	11	校友会役員名簿、編集委員名簿……………	23
満喜葉会(動物資源科学科)……………	12	校友会からのお知らせ……………	24
いもづる会(食品ビジネス学科)……………	13		

「生物資源科学部の現状とその未来に向けて」

日本大学生物資源科学部 学部長

大矢 祐治

多くの教職員の皆様方のご支援・ご支持をいただき、平成27年12月14日に学部長に就任して以来、3年8ヶ月が経過いたしました。この間、微力ながら学部と大学院、併設の鶴ヶ丘高等学校、藤沢高等学校、藤沢中学校、藤沢小学校の更なる発展のために全力で対応してまいりました。現在も、山積する多様な課題の解決に向けて鋭意努力しております。

本学部の教育・研究環境は他大学と比較してもきわめて充実しておりますが、就任後は施設面の更なる整備を進めてまいりました。その一環として、この春には学生支援システム(Live Campus)を一新させました。このシステムでは保護者が学生の出欠状況を確認することもできるようになり、また連続して講義に欠席した場合には担当教員やクラス担任へ自動的に連絡が行くようになり個々の学生に速やかに対応することが可能になりました。

また、1号館には学生の主体的な学習を支援するアクティブラーニングスペースを、図書館にはラーニングコモンズを設置し、より効果的な学生教育ができるようになりました。さらに学習支援センター、学生相談室、保健室をリニューアルし、在学生にとって広く、明るく、相談しやすい環境が整備されました。

就職状況を見ますと、平成30年度は就職希望者の就職率が本学部では97.5%となり近年は高い水準を維持しています。また、高大連携教育の一環として、日本大学付属高等学校の生物部・科学部が研究や活動内容を発表する第2回生物資源科学部長杯「生物研究発表会」を平成30年11月に開催しました。多くの付属高校の生徒の皆さんが参加され日頃の研究成果を発表して頂きました。

近年、18歳人口の減少と入学定



員の厳格化、さらに受験者のニーズの多様化により、大学を取り巻く環境はますます厳しくなっております。今後も受験生から選ばれ続け、卒業生からも本学部で学んで本当に良かったと言われる学部であり続けるために、より質の高い教育・研究の実現を目指し、教職員が一丸となって取り組んでまいります。校友の皆様におかれましては、引き続き母校の発展のために温かいご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

「ご挨拶」

日本大学生物資源科学部校友会 会長

内田 俊太郎

日本大学生物資源科学部校友会の会員の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

会報第72号の発刊に当たり学部校友会の近況をお知らせし、ご挨拶をさせていただきます。

今年度は、7月13日に令和元年度第1回通常総会を開催し、平成30年度の事業報告と同決算報告、令和元年度の事業計画(案)と同予算(案)及び会則の一部改正(案)等の審議を行い全てご承認いただきました。

学部校友会の事業の一つである「準会員への支援」につきましては、最近5ヶ年平均で見ますと毎年会費(補助費と還付金(1対9))収入の約7割に当たる年間約29百万円の支援を行っておりますが、近年の少子化、更には入学定員の厳格化による準会員の減少、また、正会員加入の伸び

悩みにより学部校友会の活動原資である日本大学校友会本部からの会費収入は、平成24年度から前年度割れとなっております。

令和元年度の会費収入は、ピークであった10年前の平成22年度と比べ約600万円減の約4,200万円となる見込です。

平成29、30年度は何とか単年度黒字となりましたが、この収入減に対し従来どおり年間約29百万円の準会員支援を行っていくことはかなり厳しい状況となってまいりました。

学部校友会の収入は、会則第24条に「会費、寄付金及びその他」と定められており、現況寄付金収入は期待できませんので、この会費収入に頼らざるを得ません。

これまで以上に経費節減に努め、現在の支援を維持していきたいと考え



ております。

今後とも日本大学生物資源科学部の発展を願うとともに、学部校友会の目的である会員相互の親睦を図り、日本大学興隆発展に寄与していく所存ですので、今後とも会員の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます、私の挨拶とします。

令和元年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会及び懇親会報告

令和元年度の通常総会及び懇親会を令和元年7月13日(土)に開催しました。

通常総会は、日本大学生物資源科学部2号館1階211講義室において午後2時から82名の会員にご出席をいただき、議長に近藤副会長が選出され、また、議事録署名人に「富嶽会の佐々木会員」及び「桜水会の黒澤会員」が選出され通常総会が開始されました。

まず、報告事項として次の6件の報告がありました。

- 1 平成30年度に制定した規則
- 2 新幹事長の任命
- 3 副会長2名の追加承認
- 4 ぐらしの生物学科校友会の学部校友会への加入
- 5 ぐらしの生物学科校友会から選出幹事の届出
- 6 令和元年度の会長賞受賞者の紹介

続いて審議事項に移り次の6件の議案を審議しました。

- 1 会則の一部改正(案)
- 2 平成30年度事業報告
- 3 平成30年度会計決算報告
- 4 平成30年度会計決算財産目録
- 5 令和元年度事業計画(案)
- 6 令和元年度収支予算(案)

審議結果は、1の「会則の一部改正(案)」は出席者の3分の2(55名)以上の賛成で、他は全て賛成多数で承認されました。

平成30年度監査報告は決算報告の後、渡部監査役から「会計決算書及び会務執行状況は適正と認める」と監査報告がありました。

審議終了後、近藤議長は議長を退任、阿部幹事長が閉会宣言し、令和元年通常総会は、午後3時40分に閉会しました。

懇親会は、午後4時から学部食堂棟3階において、長島副会長の開会

の辞の後、阿部幹事長の司会進行で開始しました。

来賓として渡邊武一郎日本大学副学長、大矢祐治生物資源科学部長及び他学部校友会会長等の方々並びに学部教職員及び会員の方々総勢140名にご出席をいただき、校歌斉唱、内田校友会会長挨拶、来賓のご挨拶、令和元年度会長賞の表彰と続き、加藤英司学部事務局長の乾杯の音頭で懇親会は始まりました。

例年どおり、各学科校友会毎にテーブル席を設け旧交を温めていただきました。

約2時間弱の懇親会の時間もあっという間に過ぎ関村副会長の中締め、横川副会長の閉会の辞で午後5時35分来年の再会を約束し、令和元年度の懇親会は終了しました。



総会で挨拶する内田会長

平成30年度 日本大学生物資源科学部校友会 収支決算書

(自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	30年度予算 (A)	30年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要
前 年 度 繰 越 金	17,701,888	17,701,888	0	現15,470円、預 17,686,418円(普 4,686,418円、定 13,000,000円)
1. 会 費 収 入	42,519,000	42,849,000	▲ 330,000	
1) 準会員還付金収入	42,018,000	42,288,000	▲ 270,000	7,048名 × 6千円
2) 正会員還付金収入	501,000	561,000	▲ 60,000	187名 × 3千円
2. 寄 附 金 収 入	0	0	0	
3. 祝 金 等 収 入	1,200,000	1,145,000	55,000	総会・懇親会の会費及び祝金その他
4. 雑 収 入	100,000	154,763	▲ 54,763	預金利息 1,195円、幹事会後の懇親会会費 153,568円
当 年 度 収 入 合 計	43,819,000	44,148,763	▲ 329,763	
収 入 合 計	61,520,888	61,850,651	▲ 329,763	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	30年度予算 (A)	30年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 分 会 交 付 金	20,522,000	20,018,000	504,000	初回還付金 41,292千円 X 1/2(大学院分 628千円除く)
2. 経 常 費	11,940,000	10,119,112	1,820,888	
1) 人 件 費	5,000,000	4,620,000	380,000	事務局勤務者に係る給与
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,200,000	1,209,908	▲ 9,908	コピー機リース料、事務機器購入及び消耗品等購入諸経費
4) 通 信 費	2,100,000	1,433,708	666,292	切手・葉書購入、都道府県支部等への資料発送費等
5) 会 合 費	700,000	659,288	40,712	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る諸経費
6) 交 際 費	1,300,000	1,057,544	242,456	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅 費 交 通 費	1,100,000	600,840	499,160	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等
8) 支 払 手 数 料	70,000	67,824	2,176	銀行振込手数料
3. 事 業 費	14,190,000	11,483,160	2,706,840	
1) 総 会 費	2,500,000	1,532,065	967,935	総会・懇親会開催諸経費
2) 広 報 費	2,400,000	1,868,096	531,904	会報印刷、ホームページ管理費用等
3) 総務委員会運営費	20,000	4,000	16,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	20,000	4,000	16,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	20,000	8,000	12,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	48,083	21,917	委員会・会報編集委員会開催経費及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	50,000	4,916	45,084	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	200,000	100,000	100,000	分会の記念式典開催に伴う補助費
9) 準 会 員 対 応 費	8,000,000	7,450,000	550,000	奨学金及び藤桜祭、スポーツフェスタ等への支援
10) スポーツ振興対応費	100,000	50,000	50,000	日本大学スポーツ振興特別委員会への寄付金
11) 箱根駅伝対応費	110,000	114,000	▲ 4,000	箱根駅伝のルール説明会、応援等に係る費用
12) 組織拡充計画費	500,000	200,000	300,000	都道府県支部の運営資金の一部補助費
13) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金(H34年度まで10ヵ年)
14) 歴史展示室開設資金	50,000	0	50,000	
15) ホームカミングデー経費	50,000	0	50,000	
4. 予 備 費	1,000,000	0	1,000,000	
当 年 度 支 出 合 計	47,652,000	41,620,272	6,031,728	
次 年 度 繰 越 金	13,868,888	20,230,379	▲ 6,361,491	現 42,924円、預 20,187,455円(普 7,187,455円、定 13,000,000円)
支 出 合 計	61,520,888	61,850,651	▲ 329,763	

平成 31 年 (令和元年) 度 日本大学生物資源科学部校友会 収支予算書
(自 平成31 年4月1日 至 令和 2 年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会
(金額単位：円)

(収入の部)

科 目	31(元)年度予算 (A)	30年度予算	30年度決算 (B)	30 決算との比較 (C=A-B)	摘 要
前 年 度 繰 越 金	20,230,379	17,701,888	17,701,888	2,528,491	
1. 会 費 収 入	41,457,000	42,519,000	42,849,000	▲ 1,392,000	
1) 準会員還付金収入	40,950,000	42,018,000	42,288,000	▲ 1,338,000	6,825名 (5ヶ年平均 7,185名 × 95%) × 6千円
2) 正会員還付金収入	507,000	501,000	561,000	▲ 54,000	169名 (5ヶ年平均 178名 × 95%) × 3千円
2. 寄 附 金 収 入	0	0	0	0	
3. 祝 金 等 収 入	1,200,000	1,200,000	1,145,000	55,000	総会・懇親会等の会費及び祝金
4. 雑 収 入	130,000	100,000	154,763	▲ 24,763	預金利息、幹事会後の懇親会会費収入等
当 年 度 収 入 合 計	42,787,000	43,819,000	44,148,763	▲ 1,361,763	
収 入 合 計	63,017,379	61,520,888	61,850,651	1,166,728	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	31(元)年度予算 (A)	30年度予算	30年度決算 (B)	30 決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 分 会 交 付 金	19,992,000	20,522,000	20,018,000	▲ 26,000	(還付金 40,950千円 × 初回還付率 97.64%) X 1/2
2. 経 常 費	11,740,000	11,940,000	10,119,112	1,620,888	
1) 人 件 費	5,000,000	5,000,000	4,620,000	380,000	事務局勤務者給与
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,200,000	1,200,000	1,209,908	▲ 9,908	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	2,000,000	2,100,000	1,433,708	566,292	分会への会報発送費の一部支援、関係先への資料発送費等
5) 会 合 費	700,000	700,000	659,288	40,712	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る費用等
6) 交 際 費	1,300,000	1,300,000	1,057,544	242,456	分会、県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅 費 交 通 費	1,000,000	1,100,000	600,840	399,160	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)
8) 支 払 手 数 料	70,000	70,000	67,824	2,176	銀行振込手数料
3. 事 業 費	14,500,000	14,190,000	11,483,160	3,016,840	
1) 総 会 費	1,800,000	2,500,000	1,532,065	267,935	総会・懇親会開催諸経費
2) 広 報 費	3,500,000	2,400,000	1,868,096	1,631,904	会報印刷、ホームページ管理費、70周年記念誌印刷費用等
3) 総務委員会運営費	20,000	20,000	4,000	16,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	20,000	20,000	4,000	16,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	20,000	20,000	8,000	12,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	70,000	48,083	21,917	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	50,000	50,000	4,916	45,084	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	100,000	200,000	100,000	0	分会及び県支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準 会 員 対 応 費	8,000,000	8,000,000	7,450,000	550,000	学部校友会行う奨学金、準会員支援の原資
10) スポーツ振興対応費	100,000	100,000	50,000	50,000	日本大学スポーツ振興関連等費用
11) 箱根駅伝対応費	120,000	110,000	114,000	6,000	箱根駅伝の応援に係る諸費用
12) 組織拡充計画費	500,000	500,000	200,000	300,000	都道府県支部の運営資金の一部補助等
13) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金 (H34年度まで10ヵ年)
14) 歴史展示室開設資金	50,000	50,000	0	50,000	学部創立60周年記念展示室の開設準備費用
15) ホームカミングデー経費	50,000	50,000	0	50,000	ホームカミングデー開催準備費用
4. 予 備 費	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	
当 年 度 支 出 合 計	47,232,000	47,652,000	41,620,272	5,611,728	
次 年 度 繰 越 金	15,785,379	13,868,888	20,230,379	▲ 4,445,000	
支 出 合 計	63,017,379	61,520,888	61,850,651	1,166,728	

校友だより

缶・びん詰、レトルト食品 業界発展のために

食品生命学科

2014 年度卒業 川崎 幸正

公益社団法人 日本缶詰びん詰レトルト食品協会

私は 2013 年度に食品生命学科を卒業し、同年大学院博士前期課程に入学、2015 年度に修了しました。大学院修了後は公益社団法人 日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて勤務しております。本会は、缶詰、びん詰、レトルト食品の安全性の確保と品質の向上などを目的として組織されている団体であり、東京都千代田区に本部事務所、神奈川県横浜市に研究所を構え、業界発展のために様々な活動を行っています。現在は研究所の食品工学研究室に所属しており、会員企業より依頼された容器や加熱殺菌に関する試験や、業界の発展に役立つような調査・研究を行っています。また容器詰食品の対米輸出に際して必要となる試験データの収集や、その申告書類の作成なども担当しています。業務にあたり缶詰食品の製造理論や食品の物理的性質、容器の特性など専門的な知識が必須で、勉強の毎日ですが、本学食品生命学科並びに大学院で学んだことが活かされています。本会での仕事を通じて会員企業のお役に立てることに大きなやりがいを感じています。



研究所内の様子



技術大会の様子



研究所内の機器(レオメーターと粘度計)

思いに寄り添ったサービス

国際地域開発学科

平成 28 年度卒業 伊藤 慧

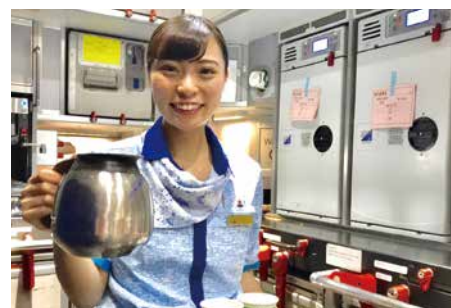
全日本空輸株式会社

私は国際地域開発学科を卒業後、全日本空輸株式会社の客室乗務員として乗務しています。現在は主に国内線、国際線エコノミークラス・ビジネスクラスを担当しております。機内では、国内・国際線共に国籍を問わず毎日たくさんのお客様に出会い、多くの事を学ばせて頂いております。ビジネスで年に何度もご搭乗してくださる方はもちろん、楽しそうな家族旅行の方、もしかしたら一生に一度の飛行機の思い出となるかもしれない方々に対し、お客様一人ひとりの思いに寄り添った対応、日本らしさやワクワク感を届けるサービス、そして「ANA に乗って良かった」と思ってもらえるサービスを目指しフライトに励んでおります。そのために日頃からお客様のご様子や背景を考えながら接することを心がけておりますが、その際に時々、大学の学科研修で出会ったミャンマーの人々を思い浮かべることがあります。

在学中、私は「ミャンマーにおける海外旅行の可能性と課題」というテーマで卒業研究を行い、約 10 日間のフィールドワーク調査に参加致しました。調査地域は首都ヤンゴンから約 11 時間ほど離れたシャン州のタウヨー村、パラウン族という

少数民族の暮らす村でした。その村であるご夫婦のご自宅に伺った際に、大切そうに飾られた飛行機内で撮影されたご夫婦の写真を見せて頂きました。その思い出をとても楽しそうに話して下さいましたことが印象的で、今でも心に残っています。彼らは舗装されていない道を何時間かけて空港まで辿り着き、彼らの年収以上の金額を旅行費に充てていました。当時研究を通して、彼らにとっての旅行の価値や求めているものは何かということを深く考えさせられました。

この貴重な経験が、現在の私の業務において一人ひとり異なるお客様の背景を考えながらサービスを行うきっかけになっていると感じます。今後もお客様が安全に、より快適に目的地へと辿り着くことが出来るよう、まだまだ未熟ではありますが日々精進して参りたいと思います。



機内(1)：NH176ロサンゼルス行きの機内にて(コーヒーのサーブ)



機内(2)：NH176ロサンゼルス行きの機内にて(制服)



ドイツ・フランクフルトのレストラン前にて、ANAのCA仲間との記念撮影

特技を活かしてビジョンを描く

応用生物科学科

平成 24 年卒業 (平成 26 年大学院修了)

櫻井 渉

キッセイ薬品工業株式会社

私は大学時に学んだ知識を活かすため地元の製薬会社であるキッセイ薬品工業株式会社に入社しました。現在は医薬情報担当者(MR)として医薬品適正使用のために医薬品の品質、有効性、安全性に関する情報の提供、収集、伝達を行っています。

昨今の医療業界では科学的根拠に基づく医療が重視されています。仕事上でも基本的な製品情報だけでなく幅広い情報として文献知識が必要となる場面が多くあります。私は学生時から続け、特技である文献調査を仕事におけるテーマに掲げて取り組んでいます。

入社2年目のある新製品発売時には関連する基礎研究に着目して文献調査を行いました。その研究分野はまだ対象となる疾患治療においても注目度が低かったのですが、将来的な可能性を感じて学会に参加し、文献著者に直接面会することで情報収集を行いました。その報告をきっかけに文献著者の先生を製品発売時の講演会演者として招聘することになり、結果として製品のスムーズな市場導入に結び付けることができました。また、社内においても基礎研究の文献調査から演者候補を探し演者として育成する初の試みとなりました。

この出来事をきっかけに本社マーケティング担当から連絡を頂く機会も増え、最近は文献調査から得た情報が新製品導入時の研修資料に使用されることもあり充実感を得ています。今は社内における文献情報の充実や組織編成に関するビジョンを描いています。学生時に文献調査を習慣化できたことに感謝しつつ、今後は社内ビジョンの実現を通じて社会に貢献したいと考えています。



社内にて



学内での特別講義にて

農をつなぐ仕事

くらしの生物学科

平成 31 年卒業 野口 琴未

千葉県 長生農業事務所

私は、千葉県の長生地域の農業事務所改良普及課に勤務し、直接農業者に対して技術指導や就農支援などを行っています。

くらしの生物学科の第一期生として入学し、園芸・食品・バイオ・環境・動物・微生物と幅広く学んできました。その中で、植物の生理・生態に興味を持ち、園芸の研究室に入りました。研究室でさらに深く農業のことを学ぶようになったことで、就職活動の時には地元の千葉県の農業をさらに発展させていきたいと強く思うようになりました。その結果、縁があって千葉県庁に入庁することができました。

改良普及課の仕事は直接農業者に接しながら技術指導や就農支援を行うほか、その地域に適した新しい技術の導入を提案したり、支援したりしています。また、農業協同組合や市町村などの関係機関と連携して産地の課題を解決するための取り組みを

行っています。

私は野菜と花き担当として、千葉県長生地域のイチゴと花き全般を担当しています。入庁して数ヶ月ですが、今は先輩について農家巡回に行ったり、実際に農家のくらしを体験させていただいたりしながら、農業に関する知識・技術を学んでいるところです。働いていく中で、普及員が一方的に指導・支援するのではなく、農業者と一緒に考えながら課題解決に取り組むことの大切さを日々感じています。

千葉県は、農業産出額が4位の農業県です。さらなる産地の発展に向けて、農業者や関係機関と信頼関係を築いていき、頼りにされる存在になれるように、頑張っていきたいと思います。



研修でお世話になっている農家にて



研修で鉢物の出荷に向けて作業している写真



卒業研究にて

学部校友会令和元年度会長賞受賞者の紹介

令和元年度の会長賞の表彰式は、令和元年7月13日開催しました懇親会の席上で行いました。

今年度は、角笛会会長から推薦がありました中川秀樹会員及び満喜葉会会長から推薦がありました小宅憲吾会員に対し内田学部校友会会長から表彰状と副賞が授与されました。

- 中川 秀樹 会員：昭和40年3月に本学部獣医学科を卒業され、平成17年から30年まで角笛会会長として、また、学部校友会の役員として14年の長きに亘り指導育成に努められ、今日の角笛会及び学部校友会の発展に大変貢献されました。



中川秀樹会員

- 小宅 憲吾 会員：昭和44年3月に本学部畜産学科を卒業され、以来、茨城県警察官として職務に精励されその功績により平成30年4月第30回危険業務従事者叙勲の瑞宝単光章を受章されました。



小宅憲吾会員

カッター部の活動状況です

カッター部は年2回5月の東日本大会、11月の全日本大会のレースを目指して平塚相模川河口から東海道線鉄橋の間で練習をしています。2回のレースの間には横浜カッターレースにも参加しています。6mカッターを使う往復300mのレースで出場チームが大変に多く、勝ち抜き戦とはいかず上位チームのみが準決勝、決勝へと進めるのです。現役、OB共に健闘ならず準決勝に進めませんでした。日常の練習ですが、昨年10月に東京海洋大学工学部（旧東京商船大学）と晴海運河で練習試合を行い勝利し、その勢いで浜名湖三ケ日で行われた11月の東日本大会では2位となりました。次の本年5月に呉で行われた海上保安大学校主催の全日本大会では、その勢いが出なかったのが残念でした。三ケ日と言えば10年前にカッターの転覆事故の記憶があります。原因は荒天で救助に向かったモーターボートの操縦員に曳航経験無し、曳航される側も舵の操作をしなかった為に曳航中にカッターが大きく左右に頭を振り転覆、中学生一人が死に至ったというものです。初歩的なミスと言ってもは亡くなった方には申し訳ないですがお気の毒でした。現在使用されているカッターはFRP

製で床下には発砲スチロールが敷き詰められその上をFRP床にしてあり、転覆時でも浮力は十分に保たれています。万が一転覆したら舷側に貼ってあるライフラインにつかまれば救助を待つことが出来ますし、余裕があれば何人かで艇を反転させ水を掻き出すことで元の状態になります。これは基本動作で、常に確認をしておくことが危険防止の為に重要です。

レースは自然が舞台ですので天候に左右され易く荒天や大雨では中止です。

カッター部は漕ぎ練習場所の平塚係留地までは1時間半、他校は校舎が海や運河に近く、すぐに練習が出来るので練習時間に大きく差が出ます。然し練習場所があるだけ感謝しなければなりません。部員にはハンディをどのように埋めるかの工夫をするように伝えています。

現在カッターを所有し、訓練や体力養成をしているのは海上自衛隊、海上保安庁とその付属学校、水産系、商船系の学校、海洋少年団位です。我が校にカッター部があるのは水産学科（海洋生物資源学科）が有るからです。

記：原 博隆（昭和44年卒）



山下公園前スターター



氷川丸手前にある回頭旗迄の折り返し



写真手前は我がカッター部、勝ちました。晴海運河での練習試合、対岸はオープンしたばかりの豊洲市場です。



呉で開催の全日本レース出発前、ピンクの旗が我が校

富嶽会

生命農学科

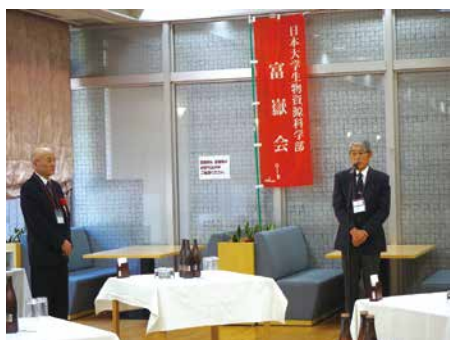
連絡先：花の科学研究室

0466-84-2906 事務局長 窪田 聡

E-mail: kubota.satoshi@nihon-u.ac.jp

平成 31 年度富嶽会総会の開催

平成 31 年 5 月 11 日（土）に中講堂（本館 3 階）において富嶽会総会が開催され、長島武志会長の挨拶の後、平成 30 年度事業報告・決算報告・監査報告および平成 31 年度事業計画案・予算案等が審議され了承されました。総会終了後、植物医科学研究所の北宜裕教授による「わが国における野菜育種の現状と今後の方向性」と題した講演会が持たれました。続く懇親会でも集まった新旧の会員、学科教員そして学生らで親睦を深めることが出来ました。



総会後の懇親会で挨拶される長島会長

活動経過報告

生命農学科では、学科名称を変えてから 5 期目となる 132 名の新入生（準会員）をこの 4 月に迎え入れました。入学式での彼らの目の輝きが印象的でした。5 月 18 日の学部スポーツフェスタでは、富嶽会の支援で作った学科 T シャツを全員身にまとい、大いに奮闘しました。総合点数は必ずしも芳しくはなかったですが、大縄跳びで後半に回数が伸びる場面や綱引きで一回戦目で星を取るなど、盛り上がる場面も多かったです。

話しは前後しますが、毎年秋に行われる学科の「収穫祭」も富嶽会の支援を頂いている恒例の活動です。学科の 1 年生～4 年生、大学院生、



お揃いの学科 T シャツを着て新入生奮闘



第 49 回「収穫祭」の一コマ

教職員が一堂に会し、「農学」の基本となる作物の恵みに感謝し、祝い、農場で採れた幸をみんなで味わう催しです。昨年度は第 49 回目の収穫祭となり、学部の中でも最も続いている学科行事の一つです。かつて会員の皆さんも、この「収穫祭」で大いに飲んで食べて騒いだのではないのでしょうか？ 最近は、上級生らによる仮装してのグループ・ダンスが場を盛り上げています。今年は 12 月 14 日（土）夕方～に予定されていますので、OB・OG の会員の皆様もお時間あれば顔を出して頂ければと思います。

また、生命農学科に学科名称変更して最初の卒業生 146 名を 2019 年 3 月 25 日に輩出することができました。卒業式の日、富嶽会からの記念品として、新社会人の必需品「名刺入れ」が卒業生一人一人に贈られました。学生（準会員）から卒業生（正会員）になり、富嶽会会員同士の縦の連携を深めて頂ければと思います。

生命農学科の近況

昨年度まで学科主任でした磯部勝孝教授が学部執行部役員となったのを機に、今年度より窪田聡教授が学科主任となりました。若い教員も多くなる中、窪田主任の指揮の下、新たな魅力ある学科づくりを進めています。

人事としては、この 4 月より遺伝育種学研究室の奈島賢児先生が専任講師に昇格されました。奈島先生の研究テーマは「パインアップルおよびアジサイのゲノム分析」で、本人曰く「専任講師に昇格し、責任の重さを感じています。研究・教育により一層精進し、今後の学科の発展に向けて尽力したいと思います。」とのこと。学科の若手として研究そして学科運営にもご活躍が期待されます。

また、昨年度まで 6 年間学科事務を務めて頂いていた栗林真珠美さんが移動となり、新たに田村優佳子さんを迎えています。田村さんは本学部食品生命学科卒生で、「2019 年 4 月より生命農学科事務室に実習助手として着任した田村優佳子です。生命農学科の皆様の学生・研究生活をサポートできるように努めて参りますので、よろしくお願いいたします。」と元氣いっぱいの強力な新メンバーです。



専任講師 奈島 賢児先生 実習助手 田村 優佳子さん

富嶽会事務局より

学科の教員・学生の活躍や魅力を積極的に伝えようと、学科の HP も日々更新・拡充しています。富嶽会 HP と合わせて是非、ご覧ください。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~agb/>
(大澤 啓志)

紫友会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室

0466-84-3945 事務局長 荻原 淳

E-mail: ogihara.jun@nihon-u.ac.jp

令和元年度 紫友会

【理事会開催】

定例の理事会は本年6月29日(土) 14時より本館33講義室で開催されました。高橋会長の挨拶から始まり、平成30年度事業・決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。次に平成31年度、令和元年度の事業計画・予算案等が審議され、満場一致で承認されました。



H31・R1年度理事会

活動経過報告

【就活支援セミナー開催】

平成30年12月8日(土) 生命化学科3年次学生を対象に就活支援セミナーを開催しました。本セミナーは近年、本学科を卒業し、各業種で活躍の紫友会会員の先輩方15名の各人を取り囲み座談会形式で行われました。就職活動前に考えて欲しいことなど社会人の立場から学生に有益な情報を提供することを目的とし開催しています。



H30年度就活支援セミナー

【フレッシュマンセミナー開催】

平成31年4月20日(土) 生命化学科新入学生を対象にフレッシュマンセ

ミナーを開催しました。本セミナーも同様に、本学科を卒業した先輩方11名をお呼びして座談会形式で行いました。1年次学生に対して早期に卒業後の進路を考える機会を与えることを目的として開催しています。両セミナーとも学生の双方向的な意見交換の場として盛会のうち終了しました。

【令和元年度 第26回紫友回奨学生決定】

理事会の同日に奨学生選考委員会より厳正に選考された以下9名の奨学生が決定しました。

2年次；和田 真由、高田 真有、渡部 一真

3年次；平林 風歌、大内 梨加、遠藤 未樹

4年次；池田 志織、西島 克哉、佐々木 翼

【令和元年度 第6回紫友会特別賞】

同日の紫友会特別賞選考委員会により厳正に選考された以下4名が令和元年度第6回紫友会特別賞受賞者として承認されました。

1)奥江 紗知子(博士後期課程2年生) (受賞理由) 2019年日本栄養・食糧学会学生優秀発表賞を受賞

2)小山 亮佑(博士後期課程3年生) (受賞理由) 日本科学協会2019年度笹川科学研究助成(化学系)を授与

3)保坂 浩貴(博士後期課程2年生) (受賞理由) 2018年日本農芸化学会関東支部ポスター発表部門優秀発表賞を受賞

4)白井 沙也加(博士前期課程1年生) (受賞理由) 2018年日本水産増殖学会第17回大会 ベストポスター賞を受賞

生命化学科の近況

【在校生】

平成30年10月6日に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。熱戦の結果、発酵化学研究室が優勝しました。表彰式・懇親会には紫友会役員の皆様にもご同席いただき、懇親を深めることが出来ました。平成31年3月25日に本学部アリーナで平成30年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生135名が社会へと

元気よく羽ばたきました。同年4月から生命化学科1年次学生144名(男子70名、女子74名)を迎え入れ、現在、当学科には計531名(男子275名、女子256名)の学生が在籍しております。



H30年度ソフトボール大会

【学科教員動向】

平成30年4月1日付けで伊藤紘子先生(植物栄養生理学研究室)が専任講師へ昇格されました。益々のご活躍を期待しております。これにより、学科全体では教員18名(教授7名、准教授2名、専任講師6名、助教1名、助手2名)、実習助手2名、合計20名の布陣で教育研究活動にあたっております。平成31年3月21日から1年間の予定で渡邊泰祐専任講師(発酵化学研究室)が日本大学海外派遣研究員としてカールスルーエ工科大学(ドイツ)に留学しております。令和元年5月17日に開催されました日本栄養・食糧学会において細野崇専任講師(栄養生理化学研究室)が奨励賞を受賞されました。また、春見隆文元教授および荻原淳教授(発酵化学研究室)は令和元年6月24日に第18回グリーン・サスティナブル ケミストリー賞奨励賞を共同受賞されました。先生方のご研究のますますのご発展を祈念いたします。

紫友会事務局より

【事務局からのお知らせ】

今後とも皆様のご支援を御願い申し上げます。紫友会会員の皆様の近況や同期会等のご様子を事務局まで御知らせ下さい。紫友会のホームページは<http://www.nihon-u-shiyukai.jp>からご覧いただけます。また、インターネット上で「紫友会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

(荻原 淳)

角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医病態生理学研究室
0466-84-3633 事務局長 鯉江 洋
E-mail: koie.hiroshi@nihon-u.ac.jp

令和元年度 日本大学獣医学会・ 角笛会合同大会の開催

令和元年6月29日(土)、日本大学生物資源科学部1号館121講義室において令和元年度角笛会総会および第57回日本大学獣医学会が開催されました。日本大学獣医学会は永田雅彦担当学会長のもと、10題の一般講演と獣医学科教員5名(山崎純先生、伊藤大介先生、山谷吉樹先生、丸山治彦先生、浅野和之先生)による教育講演「救急医療・先生、急患です!」が行われました。会員52名、学生・ANMEC研修医108名、その他9名と計169名が参加し、内容の充実した学会となりました。

角笛会総会では鳥海弘会長(昭和50年卒)から挨拶があり、総会に先立ち、諸先生方のご訃報に際し、黙祷が行われました。総会は、遠矢幸伸議長の前で審議が行われ、平成30年度事業活動および会計収支報告、令和元年度事業活動および予算案等が審議され、一部議案を除き満場一致で承認され、一部議案については継続審議となりました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、新関博夫氏(山形県)、田村幸生氏(群馬県)、小茂田匡央氏(群馬県)、熊倉紘氏(新潟県)、黒田博之氏(富山県)、平原久利氏(宮崎県)、福田陽一先生(本部)の7名に賞状と記念品が授与されました。総会後、食堂棟3階にて開催された懇親会には、他学科同僚校友会来賓、角笛会校友、大学教員、学部生(準会員)など多数の参加者が集まりました。森友忠昭獣医学科主任(昭和61年卒)の乾杯の音頭で開幕し、にぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。



角笛会総会



角笛会功労者表彰
(左:鳥海弘会長、右:福田陽一先生令夫人)

角笛会主催 令和元年度 動物病院就職説明会の開催

令和元年6月29日(土)(令和元年度日本大学獣医学会・角笛会合同大会と同日)、獣医学科学生(準会員)のための動物病院就職説明会が開催されました。趣旨・目的に賛同し参加した動物病院40施設による個別相談ブースが用意され、学生127名が参加しました。就職活動だけでなく低学年の動物病院見学や実習などさまざまな情報交換が行われ、動物病院、学生の双方から有意義なイベントとなったと好評を得ました。



動物病院就職説明会

第17回 日本大学医療系同窓・ 校友学術講演会の開催

第17回日本大学医療系同窓・校友(医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部校友会、獣医学科校友会・角笛会)学術講演会は、

平成30年9月29日(土)医学部同窓会が担当で「再生医療」をテーマにシンポジウム形式で開催され、参加者との意見交換が活発に行われました。角笛会からは獣医外科学研究の枝村一弥先生(平成11年卒)が「獣医学領域における再生医療の現状と臨床指針」と題して発表しました。



講演する枝村一弥先生

令和元年度 学部校友会総会にて 中川秀樹氏を表彰

令和元年7月13日(土)に開催された令和元年度 学部校友会総会において、角笛会顧問 中川秀樹氏(昭和40年卒)が会長賞を授与されました。中川秀樹氏は長年にわたる畜産振興・公衆衛生の向上・動物福祉精神の向上に尽力された功績により平成28年に「旭日小綬章」を受章し、また角笛会会長を14年の長きにわたり務めました。

人事

本年3月をもって津曲茂久特任教授(獣医臨床繁殖学研究室)、菅野信之専任講師(獣医内科学研究室)、岡西広樹専任講師(獣医内科学研究室)、佐藤春花実習助手(学科事務室)が退職されました。本年4月に小川健司教授(獣医伝染病学研究室)が採用されました。松本淳先生(医動物学研究室)が教授に、伊藤大介先生(獣医神経病学研究室)、鈴木由紀先生(獣医衛生学研究室)が准教授に、越後谷裕介先生(実験動物学研究室)、片倉文彦先生(魚病学研究室/比較免疫学研究室)が専任講師に、木庭隼達先生(獣医微生物学研究室)が助教に昇格されました。また、泉對博再雇用教授(獣医伝染病学研究室)が特任教授となりました。

(岡林 堅)

満喜葉会

動物資源科学科

連絡先：畜産マーケティング研究室
0466-84-3648 事務局長 小泉 聖一
E-mail: koizumi.seiichi@nihon-u.ac.jp

平成31年(令和元年)度 満喜葉会 一活動経過報告一

【役員会の開催】

定例の役員会は、本年5月18日(土)午後4時より、2号館2階第1会議室で開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、平成30年度事業・決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。次に令和元年度の事業計画・予算案が事務局より提案され承認されました。

【スポーツフェスタ、新入生歓迎会の開催】

上記役員会の後、午後5時より本館ガレリア階銀座スエヒロにおいて新入生歓迎会が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと盛大に行われました。



2019年新入生歓迎会

新入生歓迎会と同日に行われた「スポーツフェスタ2019」は、天候にも恵まれ、昨年同様、全競技がグラウンドで執り行われました。本年も満喜葉会からスポーツフェスタ時に着用するTシャツを全新生、教員に進呈していますが、今年も昨年同様、「Navy blue」の生地に学科略称「ASR (Animal Science and Resources)」のロゴを配ったTシャツをユニフォームとして着用し、見事総合優勝に輝きました。



スポーツフェスタ2019 優勝!

学科の近況

【卒業生および新入生】

本年3月25日、148名が動物資源科学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月には147名の新入生を迎え、在籍者は4学年合計で571名(4月1日現在)となっています。本年度の1年生の男女比は、男子59名(39.9%)、女子88名(60.1%:過年度学生を含む)、全学年では男子38.9%、女子61.1%となり、食品ビジネス学科に次ぐ学部内で2番目に在籍女子学生比率が高い学科となっています(女子学生比率が在籍者の50%を超えているのは当学科の他に獣医学科60.0%、食品ビジネス学科62.0%、食品生命学科55.4%の3学科)。

【学科人事について】

平成31年3月末日をもって、増田哲也教授は定年のため退職されました。増田先生は、特任教授(任期1年)として本年4月より再び任用されています。昨年、一昨年に特任教授として任用された丹羽美次先生、村田浩一先生はそれぞれ再々任用、再任用されました。本年度、新規採用はありませんでした。

本年4月1日付で、ミルク科学研究室の川井泰准教授が教授に、動物組織機能学研究室の相澤修助教が専

任講師に昇格されました。

本年度の研究室の配置と所属教員(17名)と特任教授(3名)は以下の通りです。

動物組織機能学

(山室 裕 教授、園田 豊 専任講師、相澤 修 専任講師)

伴侶動物学

(甲斐 藏 教授、福澤めぐみ 准教授)

ミルク科学

(川井 泰 教授)

動物育種学

(長嶺慶隆 教授)

動物生殖学

(大西 彰 教授、三角浩司 准教授)

野生動物学

(岩佐真宏 教授)

草地学

(佐伯真魚 教授)

飼養学

(梶川 博 教授、浅野早苗 助教)

畜産経営学

(小林信一 教授)

畜産マーケティング

(小泉聖一 教授)

学科事務局

(神原サキ 実習助手、深谷有紀 実習助手、)

特任教授

(丹羽美次、村田浩一、増田哲也)

(山室 裕)

いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：学科事務室

0466-84-3420 事務局長 大石 敦志

E-mail: imozurukai@gmail.com

幹事会・懇親会を開催

6月1日(土)、恒例の幹事会および懇親会が日本大学生物資源科学部で開催されました。幹事会では、概ね例年通りの事業を行うための事業案と予算が承認されました。幹事会終了後、今年度は「学生活動報告会」と題し、アグリカルチャーコンテストでの報告(川手ゼミ、谷米ゼミ)と食品ビジネス学学術研究会(通称ハイヤーズ)の報告を行いました。聴講された会員から、いい報告だった、学科のレベルが上がったと感じたなどのお褒めの言葉をたくさんいただきました。懇親会では、会員の他、学科教員、学生活動を報告した4年生や各研究室の4年の代表者が出席し、和気あいあいとした中で、お互いの親睦を深めました。



懇親会の記念写真

食品ビジネス学科の近況

【新入生】

2018年度に161名の学生が卒業し、本年度は147名の新入生を迎えました。4月20日には新入生研修会を開催し、本年度も基礎演習班ごとにオリジナルキャンパスマップの作成と発表をしたり、上級生と一緒にランチをしたりし、学生間での親睦を大いに深めました。5月18日には学部主催のスポーツフェスタが開催され、新入生研修会時に投票で一位になったデザインのお揃いのポロシャツを着て、学科一丸となって盛り上がり、綱引きで5年連続1位になるなどそ

れぞれの種目で、新入生らしいはつらつとした姿勢で競技に臨んでくれました。結果は奮闘及ばず総合10位でしたが、これら一連の行事により、新入生間の結束力がより一層深まり、充実した大学生活になることが期待されます。



卒業式でのいもづる会賞の表彰



新入生研修会での報告の様子



スポーツフェスタ



5連覇した綱引き



5連覇記念せんべい

【教職員の動き】

日本大学の海外派遣研究員として、若林素子先生が「香気化学物異性体の構造活性相関移管する研究」のため4月1日～10月16日までドイツ連邦共和国ミュンヘン工科大学へ、久保田裕美先生が「北米における都市食料政策およびフードポリシーカウンシルの研究」のため8月21日～来年8月22日までアメリカ合衆国カリフォルニア州およびカナダトロントへ、それぞれ出張です。

【会員への各種案内方法の変更(お願い)】

既にご案内の通り、会報や各種案内の従来の紙媒体での案内方法から、メールやホームページ等のネット媒体での案内方法に移行しております。

現在メール以外では、次のホームページとFacebookの接続方法がございます。是非Facebookの友達の申請をお願いいたします。また、住所変更、幹事会や懇親会等の参加申込みなどをホームページにて受け付けております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(1) いもづる会ホームページ

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>

「いもづる会」で検索



(2) いもづる会 Facebook (いもづる会 校友会)

<https://www.facebook.com/imozurukai/>

Facebookで友達申請をしてください。

(大石 敦志)

あすなろ会

森林資源科学科

連絡先：森林植物・微生物学研究室
0466-84-3666 事務局長 鍛代 邦夫
E-mail: kitai.kunio@nihon-u.ac.jp

平成 30 年度あすなろ会 活動報告

【役員会】

平成 30 年 9 月 15 日にあすなろ会理事会を 10 号館で開催しました。当会では平成 29 年度事業報告、監査報告、平成 30 年度事業計画（案）及び予算（案）について審議され、承認されました。

【あすなろ会親睦地引綱大会開催】

平成 30 年 10 月 20 日（土）に鵠沼海岸で地引綱大会による親睦会が開催されました。学生やご家族なども含む約 40 名が参加し、地引き綱を楽しみました。



あすなろ会親睦地引綱大会

学科の近況

【卒業生による職業情報交換会】

本会は、3 年生を対象に、森林・林業関連業界で活躍している卒業生を講師として招いて仕事内容や就職活動の経験等の話をしてもらうことで、学生の就職活動の第一歩を支援することを目的に、毎年開催しています。平成 30 年度は、12 月 5 日に開催し、公務員や建設系コンサルタント、建材等の幅広い業種から合計 36 名の卒業生にご参加いただきました。緊張していた 3 年生も、卒業生の親しみやすい雰囲気により、次第に積極的に質問するようになり、活発な情

報交換が行われました。お忙しい中、ご参加いただいた卒業生の皆さま、本当にありがとうございました。なお、この会の運営にあたり、あすなろ会からご支援を頂戴しております。



卒業生による職業情報交換会の様子

【卒業生・新入生】

本年 3 月 25 日に、161 名（男子 121 名、女子 40 名）が本学科を卒業しました。毎年、研究室において成績優秀かつ研究室に貢献した学生に「あすなろ会会長賞」を授与しています。今年も 9 名に表彰状と記念品が授与されました。

4 月には、136 名（男子 105 名、女子 31 名）の新入生を迎え新学期が始まりました。5 月にはスポーツフェスタ（学部運動会）が行われ、本学科は、学科対抗企画リレー 1 位と応援賞受賞となりました。1 年生がデザインしたお揃いの T シャツを着て各競技で奮闘し、団結力が高まりました。T シャツ制作にはあすなろ会からご支援を頂きました。

また、1 年生前期には、必修の森林資源科学実習が開講されます。本実習は、学科の研究・学問分野の基本を学んでもらうため、全教員が実施する各専門分野に関わる実験・実習を 3 テーマ選択し受講します。フィールドは演習林から自然公園や関連会社等さまざまです。6 月には、同実習の一環である 1 年生全員参加の軽井沢野外研修を 2 泊 3 日で実施しました。初日は雨にも見舞われましたが、2 日目以降は天気にも恵まれ、鮮やかな新緑のカラマツの中、さまざまな樹木の特徴を覚えたり、各研究室が実施する実習に参加しました。



卒業式で恒例の万歳三唱



スポーツフェスタの企画リレー

【学科の人事】

本年 3 月、バイオマス資源化学研究の片山義博先生が退職されました。バイオテクノロジーや化学を活用した森林資源の利用に関する研究等を通じて、多くの学生や大学院生を指導して頂きました。同研究室の後任には、本年 4 月より毛利嘉一先生が助手として着任しました。毛利先生は、本学科の平成 25 年度卒業生で、今後の活躍が期待されます。また、本年 4 月より、森林環境保全学研究室の阿部和時先生が特任教授に着任し、森林共生学研究室（旧森林経営学研究室）の杉浦克明先生が准教授に昇格されました。

あすなろ会ホームページ

あすなろ会ホームページが下記のアドレスに開設されています。宮島会長の挨拶、役員人事、会則、行事予定、近況の活動報告等の他、あすなろ会 60 周年記念行事として作成した「あすなろ会 60 年のあゆみ」も掲載されています。ぜひ、ご覧ください。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~asunaro/index.html>

（園原 和夏）

桜水会

海洋生物資源科学科

連絡先：生物機能化学研究室

0466-84-3682 事務局長 森 司

E-mail: mori.tsukasa@nihon-u.ac.jp

2019 年度桜水会総会・懇親会を開催

2019 年 6 月 15 日（土）14:30 より湘南キャンパス 10 号館において「2019 年度桜水会総会」が、16:00 より食堂棟 3 階 NUBSホールにおいて「懇親会」が開催されました。「総会」では、2018 年度の事業報告、決算報告、監査報告、2019 年度の事業計画案、予算案などが審議され、すべて承認されました。

「懇親会」は、卒業生会員を中心に、学科教員および準会員である在学生も参加して総勢 75 名で実施されました。

学科・準会員への支援

今年度の前期には、「海洋生物資源科学概論」（1 年次必修科目）の中で、将来就いてみたい職業を見出す職業研究の一環として、活躍する本学科卒業生の体験談などを講演していただきました。6 月 25 日に平工顕太郎氏（55 期、ゆいのふね代表）、7 月 16 日に辻あすみ氏（64 期、一般社団法人マリノフォーラム 21）と村上大雅氏（60 期、共立製薬㈱）、7 月 23 日に小野ゆかり氏（64 期、三洋テクノマリン㈱）と樋口敏久氏（60 期、横浜冷凍㈱）の計 5 名の卒業生に演者としてお越しいただきました。また、「特別講義」（3 年次選択科目）では、本学科海洋生物資源応用コース（JABEE 対応コース）の外部評価委員に委嘱されている長谷川勝治氏（20 期、元焼津水産高校校長）、尾崎之紀氏（37 期、味の浜藤㈱）、市橋 理氏（37 期、アジア航測㈱）、宮下一明氏（38 期、㈱東京久栄）、新井健次氏（18 期、新井技術士事務所）および田角由香氏（日本ミクニヤ㈱）の 6 名に、技術者教育の一環として講演していただきました。このほか、1 年次の必修科目である「海洋基礎実習 I」への支援、スポーツフェスタ（昨年に続き準優勝）の学科 T シャツの作製を支援しました。今後、今年度中に在学生の学会参加費等の補助や学科広報用パ

ンフレットの作成支援、卒業記念品の贈呈、卒論コンペ（塚本賞）の支援等を実施する予定です。

学科の近況

【新入生・在学生】

本年 4 月に 147 名（男子 98 名、女子 49 名）の新入生を迎え、現在 594 名（男子 392 名、女子 202 名）の学部生が在籍しています。また、4 専攻に跨る大学院には、博士前期課程 15 名（男子 12 名、女子 3 名）、および博士後期課程 6 名（男子 4 名、女子 2 名）が在籍しています。塚本勝巳教授が定年退職されたことに伴い（後述）、海洋生物資源科学科は 8 研究室体制となりました。4 月 20 日（土）に新入生オリエンテーション（「海洋基礎実習 I」の一部）として、鵠沼海岸で地曳網を行い、その後新江ノ島水族館を見学しました。5～6 月に下田臨海実験所で海洋基礎実習 I を実施し、本学科の基礎を体験しました。また、5 月 18 日に開催されたスポーツフェスタでは、前年に引き続き、準優勝に輝きました。



鵠沼海岸でのオリエンテーション（地曳網前の集合写真）



下田臨海実験所での海洋基礎実習 I の一コマ（釣った魚の種同定）



下田臨海実験所での海洋基礎実習 I の一コマ（救命艇への津波想定避難訓練）

【学科教員の異動】

海洋生物資源科学科では、2018 年度から 2019 年度にかけて大きな体制変更がありました。2018 年 11 月、ウナギ学研究室の塚本勝巳教授が定年退職され、東京大学の特任教授に着任されました。また、2019 年 3 月末をもって、海洋生物生理学研究室の朝比奈潔教授が定年退職され、4 月より本学の特任教授に着任されました。2019 年度は 2 名の先生方が新たに採用され、4 月より澤山英太郎専任講師（海洋生物生理学研究室）および周防玲助手（増殖環境学研究室）が着任されました。鈴木美和准教授が教授に昇格され、学科主任に選出・着任されました。中井静子助教が産休・育休より復帰されました。これまで 6 年間にわたり学科事務室で勤務されていた阿部江子実習助手は、研究事務課に異動となり、学科事務室は、神谷知花実習助手および菊池真理子実習助手の 2 名体制となりました。



澤山 英太郎 専任講師



周防 玲 助手

桜水会事務局より

桜水会会員の皆様の近況や同期会等の活動の様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページ（HP）は、海洋生物資源科学科 HP (http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kaiyo/wp/o-sui_description/) 内に併設されております。同ウェブ上で連絡先等の変更手続きができますのでご活用ください。桜水会では、会報の原則オンライン化に向け、総会の開催通知および会報の発行通知時に申し込みいただくことになりました（2021 年 3 月末締切）。また、今後、ハガキの送付からメール等の送付に移行するため、メールアドレスの登録をお願い致します。詳細は、桜水会 HP をご覧ください。

（糸井 史朗）

工 学 会

生物環境工学科

連絡先：生物生産システム工学研究室
0466-84-3795 梅田 大樹
E-mail: umeda.hiroki@nihon-u.ac.jp

会員の動向

正会員数は、平成30年度卒業生147名を加え、平成31年3月現在で7683名となりました。現役学生である準会員は、1年生141名(男121・女20)、2年生116名(男95・女21)、3年生132名(男108・女24)、4年生156名(男124・女32)で、合計545名(男448・女97)となっています。したがって、現役学生の男女比はおよそ4:1という状況になっています。

学科の活動

生物環境工学科では毎年1年生を対象として、学科について学ぶことを目的としたフレッシュマンセミナーを開講しています。今年度はその一環として、学科に関わる農業施設等の視察見学を6月29日に実施しました。午前中は相模川を水源とする磯部頭首工(神奈川県相模原市)を視察し、その歴史や農業における役割、また取水ゲートに使用されている技術について、それぞれご担当者様より説明を受けました。午後は園芸や農業を楽しみながら学べる施設として2010年にオープンした神奈川県立花と緑のふれあいセンター“花菜ガーデン”(神奈川県平塚市)を見学しました。ここでは、学科教員から神奈川県内の農業についての講義を受け、またあいにくの雨模様ではありましたが、園内の花木や作物を見学しました。



フレッシュマンセミナーの一コマ(磯部頭首工にて)

教員人事

平成27年4月より4年間、実習助手としてご尽力いただきました江橋沙稀さんが今年の3月31日をもってご退職されました。今後のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。後任の実習助手として、同年4月1日より池田真有花さんが着任されました。また、同じく4月1日付けで地域環境保全学研究室の對馬孝治先生が准教授に昇格されました。今後益々のご活躍を祈念いたします。

本年度の研究室の配置と所属教員(教授7名、准教授5名、専任講師4名、助手1名、特任教授1名、実習助手2名)は以下となります。

水資源環境工学研究室

(長坂貞郎教授、山崎高洋専任講師)

地域環境保全学研究室

(笹田勝寛准教授、對馬孝治准教授)

地球環境・資源リモートセンシング

研究室(串田圭司教授、宮坂加理助手)

動物生態環境学研究室

(三谷奈保専任講師)

建築・地域共生デザイン研究室

(栗原伸治教授、藤沢直樹専任講師、糸長浩司特任教授)

環境土木施設工学研究室

(川本治教授、齊藤丈士准教授)

生物生産流通施設学研究室

(佐瀬勘紀教授、都甲洙教授(研究所))

生物生産システム工学研究室

(宮本眞吾教授、川越義則准教授、梅田大樹専任講師)

バイオメカトロニクス研究室

(内ヶ崎万蔵准教授)

学科事務局

(中嶋綾香実習助手、池田真有花実習助手)



新任の池田真有花さん

学科への支援

工学会では、準会員である現役学生に向けた支援を行っています。平成30年度の卒業生には、卒業記念品(印鑑付きボールペン)の贈呈、謝恩会(卒業記念パーティ)開催に対する補助、及び卒業生表彰(工学会長賞)を行いました。謝恩会は平成31年3月22日に横浜ロイヤルパークホテルで開催され、森千裕さん、秋本優樹さん、太田海斗さん、山崎拓人さんの4名に工学会長賞を授与しました。また、本年度の5月18日に開催されたスポーツフェスタでは、当日に学科1年生が着用するTシャツ代金の補助を行いました。さらに、学科2年生が測量学実習で着用する実習服代金の一部補助も行いました。



謝恩会での工学会長賞授与の一コマ

事務局より

学科のホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~bae/>)がリニューアルし、学科体制やイベント等を順次掲載しています。是非一度ご覧ください。

また、昨年度より工学会ではイベントや各種案内をweb媒体にて告知するよう順次切り替えております。そのため、ご連絡先の変更等がございましたら工学会ホームページ(<http://www.bae-kougakukai.org/>)からお願いいたします。

(梅田 大樹)

FT 会

食品生命学科

連絡先：食品資源利用学研究室
0466-84-3980 成澤 直規
E-mail: narisawa.naoki@nihon-u.ac.jp

FT会活動報告

【FT会理事会および総会の開催】

FT会理事会が平成31年4月13日に、総会は令和元年6月8日に本学湘南キャンパスにおいて開催されました。総会では平成30年度事業報告および会計収支決算が承認されました。さらに、令和元年度事業計画案および会計収支予算についても承認されました。総会の後には同キャンパス本館 スエヒロにて懇親会を開催しました（参加者25名）。

【準会員（在学生）への活動】

FT会では準会員の活動援助として、4年生へは研究室対抗スポーツ大会懇親会の補助と卒業記念品の贈呈を行いました。4年生へ授与するFT会長賞には加藤拓海さんが選出されました。加藤さんは日本大学駅伝部主将として2019年の箱根駅伝に出場し、7区で区間10位の成績を収め、また学業も優秀であったことが選考の理由です。また4年生の学業優秀者に贈られるFT会事務局賞は佐野実さん、高橋夏乃さんの両名が選出されました。1年生へはフレッシュマンセミナーの補助

と学部スポーツフェスタでの飲食を提供しました。スポーツフェスタでは総合7位という結果でした。また、6月と8月に実施されたオープンキャンパスの補助および全学生に対して資格試験受験料の補助も例年通り実施しました。



FT会長賞受賞 加藤拓海君（平成31年3月20日 謝恩会にて）



1年生スポーツフェスタの様子（令和元年5月18日）

学科の近況

【在学生と卒業生】

平成31年度は152名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。令和元年度 新入生147名（男性69名・女性78名）を迎え、2年生138名（男性59名・女性79名）、3年生140名（男性64名・女性76名）、4年生146名（男

性62名・女性84名）と合わせ571名が在籍しております。

【学科人事】

平成31年3月末日をもって山形一雄先生（食品栄養学研究室）が定年退職され、平成31年4月より特任教授に着任されました。また、本年4月より長田和実先生が食品栄養学研究室の教授として着任されました。成澤直規先生（食品資源利用学研究室）が本年4月より准教授に、同じく京井大輔先生（食品衛生学研究室）が助教に昇格されました。

令和元年度 食品生命学科は以下の構成となっております。

○12号館5階

食品衛生学研究室
（荻原博和教授・河原井武人専任講師・京井大輔助教）

食品創成科学研究室

（阿部申准教授）

食品資源利用学研究室

（鳥居恭好准教授）

食品生命工学研究室

（今井正直教授・陶慧専任講師）

食品栄養学研究室

（山形一雄特任教授）

学科事務室

（鈴木友里実習助手・井上梢実習助手）

○12号館6階

食品資源利用学研究室

（竹永章生教授・成澤直規准教授・小林りか助手）

食品生命機能学研究室

（細野朗教授・津田真人専任講師）

食品栄養学研究室

（長田和実教授・大畑素子専任講師）

食品分析学研究室

（松藤寛教授・大槻崇専任講師）

事務局より

FT会のホームページ（<http://ftkai.net/>）では総会のご連絡など各種イベント情報を公開しています。また、FT会では同窓会・同期会の開催に際し、一部補助を行っています。ホームページからお問い合わせください。

（成澤 直規）



平成30年度 卒業式の様子（平成31年3月25日）

拓友会

国際地域開発学科

連絡先：熱帯資源作物研究室

0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸

E-mail: kurauchi@brs.nihon-u.ac.jp

令和元年度幹事会および 総会の報告

令和元年8月4日に、令和元年度拓友会幹事会および総会が開催されました。第1号議案として、平成30年度活動報告ならびに決算報告、第2号議案として、令和元年度活動計画ならびに予算案が審議され、事務局提出案が承認されました。

平成30年度拓友賞授与

平成30年度の拓友賞は、植木将太さんが国際地域開発学科より推薦され、平成31年3月25日に実施された卒業証書伝達式の席上、表彰状ならびに副賞が授与されました。



拓友賞

令和元年度 学科海外研修旅行開催

学科主催の海外研修旅行は、8月から9月にかけてウガンダコース倉内先生、福田先生（参加学生12名）、ラオスコース園江先生、野口さん（参加学生5名）が開催されました。

卒業生の進路状況について

平成30年度卒業生の進路状況は、就職110名、進学4名、その他12名、就活中5名となり、就職希望者（115名）に対する就職率は95.7%となりました。

青年海外協力隊派遣状況

本学科を卒業した以下の5名が、それぞれ青年海外協力隊として派遣されています。

また、派遣中であった本学大学院在学中の平成27年度卒部大輝君が令和元年6月に帰国しました。

【派遣中】

平成26年度卒
重吉倫太郎（フィジー：野菜栽培）
平成30年度卒
木島史暁（ウガンダ：稲作）
平成30年度卒
小林さな子（ザンビア：野菜栽培）
平成30年度卒
子田利理伊（ベナン：野菜栽培）
平成27年度卒
勝亦保奈美（ルワンダ：稲作）



新入生オリエンテーション



スポーツフェスタ綱引き



スポーツフェスタ集合写真(総合3位)

【帰国】

平成27年度卒

部 大輝（ウガンダ：農林統計）

【派遣予定】

令和元年度卒

衛藤 皐（ウガンダ：稲作）

令和元年度卒

中村 遼（ジャマイカ：野菜）

行事

新1年次歓迎オリエンテーションが、4月16日（火）に、食堂3階にて行われました。自己紹介や通じた親睦を深めました。

2019年度スポーツフェスタが、5月18日（土）に行われ、総合3位となりました。

在校生の近況

令和元年6月現在、
1年生144名（男子104名・女子40名）、
2年生126名（男子86名・女子40名）、
3年生143名（男子93名・女子50名）、
4年生150名（男子106名・女子44名）
の合計563名（男子389名・女子174名）
が在籍しています。

着任



小宮山 博 教授



野口 麻美 実習助手
（山下 哲平）

応用生物科学科校友会

応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室
0466-84-3353 事務局長 明石 智義
E-mail: akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科の近況

【在学生と卒業生】

応用生物科学科の在籍学生数は533名、学年別では1年生138名(男88名、女50名)、2年生124名(男78名、女46名)、3年生131名(男87名、女44名)、4年生140名(男73名、女67名)となっています。昨年度は124名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

【学科教員の動き】

平成31年3月に細胞機能調節学研究室の花澤重正教授が定年退職されました。先生には、平成17年に生体制御学研究室の教授として着任以来、本学科のために長年ご尽力いただき誠にありがとうございました。研究室体制や各教員の紹介等はホームページをご覧ください<<https://www.abs-brs.com>>

【ホームページ等】

学科のホームページをリニューアルし、全ての研究室の紹介のページができました。在学当時の様子を思い出しながら一度ご覧頂ければ幸いです。また学科紹介のリーフレットも改正しました。新しいリーフレットは講義(特別講義I、II)の一環として、在学生が作成しました。ホームページの「お問い合わせ」欄から請求頂ければ送付します。

学科への支援事業

応用生物科学科校友会では準会員へ向けて、新入生歓迎会、スポーツフェスタ、オープンキャンパス、卒業記念品などの支援を行っています。

平成31年4月に、新入生の相互交流や教職員とのコミュニケーションを図る目的で、新入生歓迎会を行いました。学科の教職員と100名以上の新入生が参加しました。皆、楽しく懇談し親睦を深めていました。ボランティアの4年生や大学院生も参加し、講義や学生実験、さらに研究室の様子などを紹介していました。同じく5月にはスポーツフェスタが開催され、学生、教員ともに統一されたTシャツを着て競技や応援を行いました。応用生物科学科は12学科中惜しくも8位でした。

本年度もオープンキャンパスが開催されました。高橋恭子先生(免疫システムと腸内細菌)と新井直人先生(生物は自ら遺伝子DNAを変えようとしている～生物が行うDNAの組換え～)による模擬講義が行われました。研究室の展示では、学生、大学院生、教員が研究内容をわかりやすく紹介し、さらに模擬実験等も開催され好評でした。



新入生ガイダンスにて



スポーツフェスタ



教員による進学相談



研究室公開

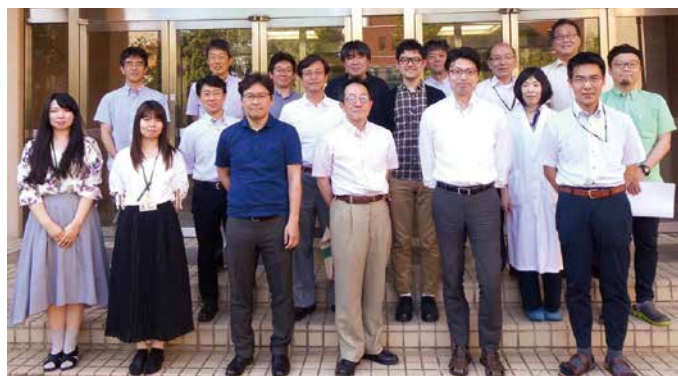
訃報

生体分子学研究室の青木俊夫教授が平成31年3月20日に病気によりご逝去されました。青木先生は平成8年に学科の教員として着任以来、植物の代謝と環境応答の研究に多大な貢献をされ、学生教育にも非常に熱心な方でした。お亡くなりになる直前まで教育・研究活動に対する情熱を失っていませんでした。また平成31年4月30日に中嶋睦安名誉教授(分子微生物学研究室)がご逝去されました。両先生が学科の教育・研究活動にご尽力されたことに感謝を申し上げますと共に、先生方のご冥福をお祈り申し上げます。

事務局より

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。また住所の変更、改姓、問い合わせ等ございましたらご一報下さいますようお願い致します。

(明石 智義)



教職員一同

くらしの生物学科校友会

くらしの生物学科

連絡先：くらしの園芸研究室
0466-84-3743 事務局長 新町 文絵
E-mail: shinmachi.fumie@nihon-u.ac.jp

くらしの生物学科 校友会について

本学部12番目の学科でありますくらしの生物学科(略称BDL:Department of Bioscience in Daily Life)は、1学年の定員が80名の、少し小さめの学科です。2015年に1期生が入学し、本年3月に109名が初めての卒業生となりました。そこで学部校友会への加入をお願いし、本年6月開催の学部校友会幹事会にてお認め戴きました。校友のみなさま、これからよろしくお願い申し上げます。



1期生の学科学位記授与式の様子

くらしの生物学科について

本学科は、「くらしのバイオ」「食と健康」「住まいと環境」「動物のいるくらし」「都市と園芸」の5領域とその境界領域を学ぶため、6つの研究室と学科事務室からなり、教職員16名で運営しています。

くらしのバイオ

安齋 寛 教授

炭山 大輔 助教

くらしの微生物

光澤 浩 教授(学科主任)

相澤 朋子 専任講師
食と健康
山下 正道 准教授
近藤 春美 専任講師

住まいと環境

小谷 幸司 教授
小島 仁志 助教
島田 正文 特任教授

動物のいるくらし

恒川 直樹 教授
金澤 朋子 助手

くらしの園芸

新町 文絵 教授
水野 真二 専任講師
渡邊 慶一 特任教授

学科事務室

保屋野 藍 実習助手
高橋 唯 実習助手

くらしの生物学科の特徴として、各領域を独立して学ぶのではなく、その相互関係を境界領域として広く学びます。学科の科目以外にも、学外から講師をお招きして「境界領域特別講義」を年2回開催しています。

さらに少人数であることを活かしてグループワークを授業に多く取り入れています。特に2年後期の必修科目である「双方向授業・生き物」はアクティブラーニングを取り入れた科目になっています。また3年次の必修科目である「ボランティア活動」などフィールドワーク



グループワークでは、2年生がファシリテーターとしてサポートしてくれました

も多く、学生の自主性や社会性、コミュニケーション能力などを育むカリキュラムとなっています。

くらしの生物学科の近況

本学科には令和元年7月1日現在で、4年生83名、3年生85名、2年生79名、1年生86名の合計333名の準会員が在籍しています。

1年生はフレッシュマンセミナーの一環として4月に富士自然教育センター(FNEC)で1泊2日の学外研修を行いました。ウォークラリーで親睦を深めた後、グループワークを行い、学科のロゴマークをデザインしました。学科の特徴を調べて班で議論し、デザインに反映させ、さらに発表することで学科への理解を深めます。学生投票で選ばれたロゴは、スポーツフェスタで着用するTシャツ(学科カラーの藤色)にプリントされました。これを着用して結束を固めた1年生は、ムカデ競争2位、縄跳び3位となりましたが、総合では昨年同様の6位でした。

1期生は、本年3月現在で98%が就職し、サービス業、卸売・小売業、製造業、情報通信業、協同組合などに巣立ち、公務員は2県・10市区町に合格しました。また本学および他大学の大学院に4名が、専門学校などに3名が進学しました。

活動報告

学科校友会の活動としては、初めての総会・懇親会を秋頃に開催する予定です。また準会員支援として、スポーツフェスタで着用Tシャツの購入、卒業アルバムの購入補助および学科への寄贈、卒業パーティー参加費の補助を予定しています。

くらしの生物学科校友会事務局より

くらしの生物学科については、ホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kurashi/index.html>)をご覧ください。Facebookやインスタグラムなどでも情報を発信しています。校友会に関する御連絡は事務局長までお願い致します。(山下 正道)



スポーツフェスタでの集合写真

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3212 仙台市泉区長ケ丘3-30-14
支部長 鎌田 雅敬 事務局長 早坂 睦雄
TEL.022-378-6592 FAX.022-378-6592
携帯電話：080-5579-5456
E-mail: mutsuo-hayasaka.1506@jcom.zaq.ne.jp

本会は生物資源科学部校友会宮城県支部として今年令和元年度で16周年を迎えました。H30年度の総会以降の近況について紹介します。

■H30年7月25日日本大学校友会宮城県支部研修会・総会が開催され、当学部校友会宮城県支部の小野隆顧問が、新支部長に決定されました。

■H30年9月8日に宮城県と山形県共同で実施している「仙山交流会」を仙台市内で開催し、宮城県から7名、山形県から6名の参加者がありました。当日は、杜の都仙台の初秋の風物詩である“第28回定禅寺ストリートジャズフェスティバル in 仙台”が開幕し、ケヤキ並木の下、街角に設けられた47か所の野外ステージで約780組5,000人以上がジャズやロック、ブルース、ポップス、カントリー、ゴスペル等を演奏し、街中にあふれるビートやボーカルの旋律と共に、牛タンの焼ける香ばしい香りとビールの匂いに包まれるお祭り気分の中、2時間程そぞろ歩きを楽しみました。少々歩き疲れたあと、仙台の暮れなずむ夕景と夜景を満喫できる仙台第一生命タワービル21階の「エスカイヤクラブ仙台店」にて懇親会が開かれました。2次会は同じビルにある隣のお店で開催しました。楽しい夕べはあっと言う間に時間が過ぎ去り、宮城県支部の見送りの中、山形県支部会のメンバーは宮城県庁前から山形行きのバスで帰路に着きました。



学部校友会宮城県支部「仙山交流会」記念写真

■H30年12月27日に校友会宮城県支部役員会・忘年会が仙台市内の料亭「ひょうご」で開催されました。会員の中には高齢で欠席の先輩方も多く、また都合のつかない会

員もあり、参加者は6名となりました。

■H31年1月23日日本大学校友会宮城県支部H31年新年名刺交換会が開催され、67名の同窓の方々が出席されました。

■令和元年度の主な会議・行事等日程

＊6月22日：R元年度総会・懇親会を市内「エスカイヤクラブ仙台店」で開催。

＊7月13日：学部交友会総会・懇親会：生物資源科学部2号館1階211講義室及び食堂棟3階にて開催。

＊7月24日：日本大学校友会宮城県支部総会・懇親会を「仙台ガーデンパレス」で開催。

＊10月6日：「仙山交流会」として山形県内で開催。

＊10月（仮）：全日本大学女子（杜の都）駅伝出場時はTV全国放送、県校友会全学部で全区間横断幕・応援旗にて選手鼓舞沿道応援を実施。

＊12月27日：役員会・忘年会を仙台市内「料亭ひょうご」で開催。

＊R2年1月23日（仮）日本大学校友会宮城県支部R2年新年名刺交換会

■会員の状況（令和元年現在36名）※卒業生・富嶽会2名・紫友会1名・角笛会2名・満喜葉会4名・いもずる会5名・あすなる会4名・桜水会4名・工学会6名・FT会4名・拓友会3名・湘南校友会1名・賛助会員：提携校・東北高等学校

（文責者 早坂 睦雄）

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘4-55
日本大学山形高等学校 小嶋 佑治
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail: kozimayuji@nihon-u.ac.jp

第27回生物資源科学部校友会山形県支部総会は、平成31年2月23日（土）山形駅併設のホテルメトロポリタン山形を会場に会員27名、生物資源科学部校友会本部より長島武志副会長、日本大学山形高等学校島津宏道教頭、日本大学校友会山形県支部加藤賢一支部長、宮城県支部鎌田雅敬支部長ら14名の来賓者のご臨席を賜り開催されました。

総会では、笠原勝（生物環境工学科・昭和56年卒）氏が議長に選出され平成30年度の事業報告と会計決算報告が承認され、平成31年度事業計画と会計予算案が可決されました。事業について日本大学山形高等学校から生物資源科学部に入学する

生徒への激励会の実施、日本大学卒業生に対しての就職支援活動、仙山交流会の実施（本年は山形県が担当）、校友会正会員の増員等について活動していくことの確認をしました。

その後、生物資源科学部生命農学科教授、磯部勝孝先生より「山形県における新規導入作物キノアの栽培と利用の可能性について」と題し、記念講演をいただき、販売流通システムの確立方法、製品開発の課題、既存営農体系への導入方法や荒廃農地対策としての導入方法など本県に関連があり興味深い内容でした。質問も多く充実した時間でした。

講演後は、富嶽会会長長島氏より学生生活支援などの校友会活動の近況等について報告がなされ、長島氏より池田支部長に支部活動助成金の贈呈がありました。

総会終了後、参加者全員の記念撮影を行い懇親会に入りました。宮城県支部鎌田雅敬支部長の音頭で県産酒の乾杯で始まり世田谷校舎や湘南校舎での学生時代の思い出話そして「キノア栽培と利用の可能性」の話に花が咲きました。後半に入り学科ごとに登壇しての自己紹介そして近況報告を行い最後に校歌斉唱し再会を誓いあいました。

（執筆 鈴木 伸広）



山形県支部 第27回総会



総会写真



磯部勝孝先生の記念講演

神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部 食品生命学科
食品資源利用学研究室 事務局長 鳥居 恭好
E-mail: tori.yasuyoshi@nihon-u.ac.jp

2019年5月11日(土)、学部1号館159講義室において総会を行ない、小牧弘前支部長の記念講演『平成における学部校友会神奈川県支部の活動を顧みて』で平成の活動の幕を閉じた。同総会において新支部長に稗貫峻、新事務局長に鳥居恭好が選出された。

学部より、農場施設の改修工事のため本年度より一坪農園の閉鎖の通告を受けていた。その後、学部と話し合い、代替地として、17号地(学部農場から数百メートル離れた場所)が認められた。194㎡(約60坪)あり、食品ビジネス学科の2ゼミと共同利用である。本農地は水栓の設備が皆無であるため、佐々木副支部長より未使用の1トン級貯水タンクの寄贈を受けた。さらに卒業生の仲介により、関連業者の迅速な協力を受け、貯水タンクの基盤に

U型側溝4基を設置して安全面での強化を図った。17号地の整備はことのほか順調に進展した。学部農場内にある本会の拠点ハウスの継続使用は運用面で重要である。

本会は、農作業と養蜂活動を中心に活動しているが、会員の高齢化は避けられない。週2回(月曜日と土曜日)の活動はなかなか大変である。鋤作業などは、体力的に限界があるため、中古の耕運機の導入を模索している。

現在は、新たに女性2名の会員を迎え、毎回5～9名ほどで活動している。

令和元年における本会の活動は、学部の在る湘南地域の持つ魅力を十分に生かした湘南六会ブランド野菜(サトイモ、ネギ、エダマメ、トウモロコシ、ナス、トマト、ピーマン)の栽培と養蜂活動(湘南の百花蜜)である。また、養蜂活動は拠点を葉山から六会へ戻すことを考えている。

さらに他の分会と協賛の形で農場内においてBBQ会、鵠沼での地引網、横浜クルージング納涼会、新年の「箱

根駅伝」応援などを行っている。

夢と希望とそして目標をもって、無理をせず頑張っていきたい所存である。

(支部長 稗貫 峻)



平成最後の神奈川県支部総会後の懇親会



記念講演をする小牧弘前支部長



17号地に立つ稗貫峻新支部長、脇には1t級の貯水タンク

*高知県支部は、今回掲載を見送る事になりましたが、海外で活躍する卒業生の紹介を掲載いたします。

SDGs 達成に向けた校友の活動

SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称です。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標です。2015年までの達成を目指していたミレニアム開発目標(MDGs)が継承されています。貧困や飢餓、健康や教育、さらには安全な水など開発途上国に対する支援だけでなく、働きがいや経済成長など先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



図.SDGsで掲げられた17の目標

このうち、アフリカの途上国で起きている貧困や飢餓問題などに校友が活躍しています。2008年に横浜で開催された第4回アフリカ開発会議で、2018年までにアフリカのコメの生産量を1400万トン

から2800万トンに引き上げる目標を掲げました。国際協力機構(JICA)は協調したアフリカ諸国と連携し陸稲(おかぼ)を主体とした稲作普及に取り組みました。その中心的役割を果たしたのが、坪井達史氏(S50 拓植学科卒)です。坪井氏は30年以上途上国の稲作普及を続けており、見事2018年までにコメの生産量を2倍に引き上げることに成功し、アフリカの食糧危機を救い、農民の所得向上に貢献しました。これまでの功績が評価され、日本熱帯農業学会賞、外務大臣賞、食の新潟国際賞などを受賞しました。さらに、坪井氏の門下生となった校友(糟谷正広:H2 国際地域開発卒、栗原一寿:H15 国際地域開発卒、宮本輝尚:H22 国際地域開発卒)が2030年までに倍々増計画達成のためJICA稲作技術専門家としてウガンダやカメルーンで活躍しています。準会員も先輩方を目標として青年海外協力隊に参加し、ウガンダ4名、ルワンダ2名、ザンビア1名が稲作普及にあたっています。先輩の意志を受け継ぎ、校友の活動も持続的に続くことを期待します。

記: 倉内伸幸



ウガンダで農業改良普及員に稲の調査方法を教える坪井達史氏

日本大学生物資源科学部校友会 役員名簿

(平成 31 年 4 月1日現在) (敬称略)

役 職	氏 名	所 属 分 会	学 科 名
会 長	内田俊太郎	拓友会	国際地域開発学科
副会長	長島 武志	富嶽会	生命農学科
〃	高橋 善人	紫友会	生命化学科
〃	山本 捷	満喜葉会	動物資源科学科
〃	横川 屹	いもづる会	食品ビジネス学科
〃	宮島 吉夫	あすなろ会	森林資源科学科
〃	関村 具由	F T 会	食品生命学科
〃	近藤 明宏	応用生物科学科校友会	応用生物科学科
幹事長	阿部 和時	あすなろ会	森林資源科学科
幹 事	佐々木 透	富嶽会	生命農学科
〃	腰岡 政二	〃	〃
〃	藤岡 智子	紫友会	生命化学科
〃	荻原 淳	〃	〃
〃	鳥海 弘	角笛会	獣医学科
〃	井上 亮一	〃	〃
〃	渋谷 久	〃	〃
〃	小杉 幸彦	満喜葉会	動物資源科学科
〃	小泉 聖一	〃	〃
〃	藤井 正気	いもづる会	食品ビジネス学科
〃	大石 敦志	〃	〃
〃	東郷 聖史	あすなろ会	森林資源科学科
〃	鍛代 邦夫	〃	〃
〃	橋ヶ迫 覚	桜水会	海洋生物資源科学科
〃	原 博隆	〃	〃
〃	黒澤 慶司	〃	〃
〃	酒川 和男	工学会	生物環境工学科
〃	工藤 謙一	〃	〃
〃	笹田 勝寛	〃	〃
〃	廣川 隆一	F T 会	食品生命学科
〃	陶 慧	〃	〃
〃	小谷田 操	拓友会	国際地域開発学科
〃	倉内 伸幸	〃	〃
〃	土屋 徳司	応用生物科学科校友会	応用生物科学科
〃	明石 智義	〃	〃
〃	安齋 寛	くらしの生物学科校友会	くらしの生物学科
〃	光澤 弘	〃	〃
〃	新町 文絵	〃	〃
監査役	長谷川 功	紫友会	生命化学科
〃	渡部 敏	角笛会	獣医学科
〃	木島 実	いもづる会	食品ビジネス学科

- (参考)
- 平成 31 年 4 月 1 日付けで「くらしの生物学科校友会」が学部校友会に加わり、同日付けで 3 名の方々が幹事に就任されました。
 - 平成 31 年 4 月 1 日付で幹事長が津曲茂久氏から安部和時に交代しました。
また、同日付けで副会長に高橋善人と宮島吉夫の 2 名が追加されました。

会報編集委員名簿

(平成 31 年 4 月1日現在) (敬称略)

所 属 分 会	氏 名
富嶽会	大澤 啓志
紫友会	荻原 淳
角笛会	岡林 堅
満喜葉会	山室 裕
いもづる会	大石 敦志
あすなろ会	園原 和夏
桜水会	糸井 史朗
工学会	梅田 大樹
F T 会	成澤 直規
拓友会	山下 哲平
応用生物科学科校友会	明石 智義
くらしの生物学科校友会	山下 正道

校友会からのお知らせ

1 学部生及び大学院生の動向について

平成22年度から30年度までの卒業生の推移は表のとおりです。

(単位：人)

区 分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
学 部 生	1,541	1,693	1,590	1,689	1,580	1,589	1,583	1,603	1,699	
短 大 生	122	157	149	153	144	149	—	—	—	—
大学院生	132	121	112	132	80	98	72	89	84	
卒業生合計	1,795	1,971	1,851	1,974	1,804	1,836	1,655	1,692	1,783	
延卒業生	90,022	91,817	93,788	95,639	97,613	99,417	101,253	102,908	104,600	106,383

(説明) 短期大学部は平成27年度をもって廃止されました。

2 令和元年度藤桜(学部) 祭について

令和元年度の藤桜祭は、10月26日(土)及び27日(日)の両日学内で開催されます。

校友会では、休憩の場として事務局会議室(2号館2階)に「OB・OGの部屋」を準備いたしますので、校友の皆様のご来場をお待ちしております。

3 令和2年度の通常総会及び懇親会の開催について

(1) 通常総会

ア 日 時：令和2年7月11日(土) 午後2時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 2号館1階 211 講義室

(2) 懇親会

ア 日 時：同日 午後4時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 食堂棟3階

なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承願います。

4 学部校友会創立70周年記念誌について

昨年度この「お知らせ」欄で創立70周年記念誌をご希望の方には有料でお願いしまたご案内しましたが作成作業が遅れておまして、本会報と併せて発行の予定ですが、価格、申込み方法等が未定ですので、具体的になりましたら学部校友会のホームページでお知らせします。

◎お願い

生物資源科学部には会員各位が卒業されました各学科毎に校友会があります。

本会報は、各学科校友会の会報編集委員及び県支部の会報執筆担当者の方々のご協力を得て学部校友会の広報委員会が作成しております。

したがって、掲載記事の内容等についてのご照会、あるいは住所等の変更事項のご連絡につきましては、各学科校友会の記事掲載ページの分会名の下に記載してあります研究室及び県支部連絡先までお願いします。

なお、会員の方への発送は各学科校友会が行っておりますので、今後の会報の要不要につきましても各学科校友会へご連絡願います。

また、学部校友会事務局(広報委員会)に関するお問い合わせは下記までお願いします。

(1) 住 所：〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866

(2) TEL：0466-84-3799

(3) FAX：0466-84-3531

(4) E-mail：brs.koyukai@nihon-u.ac.jp

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866

TEL:0466-84-3799 FAX:0466-84-3531 E-mail:brs.koyukai@nihon-u.ac.jp

印刷所：(株)デイ・エム・ビー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 561 TEL：03-5292-6800(代) FAX：03-5292-6871